

法人本部

ア 「信頼関係」について

昨年度の「年度当初に当たって」でも触れた【信頼関係】について、もう一度考えてみましょう。「エフォートレス思考」という本の一節。日々の業務の中で、つくづく実感しているのも、何度でも自らを見つめなおし、何度も伝えて共有していきたいと思うのです。

「他人との共同作業をもっと簡単にする方法がある。それは信頼だ。信頼があれば、人々の調整にかかる労力が少なくすむ。素早く仕事を分担できるし、問題が起こっても率直に話し合うことができる。貴重な情報を独占せず共有できる。わからないことがあれば気軽に質問できる。意思決定のスピードと質が上がり政治的な争いが減る。一緒に働く経験を楽しむことができる。そして、人間関係の調整に手を焼くことなく、最優先の仕事にエネルギーを集中できる。その結果、パフォーマンスは飛躍的に向上する。『あなたの判断を信頼する。』この言葉を心から言えるとき、チームは魔法のようにうまくいく。」職場での信頼関係は、ひとりでの勝手に出来上がるものではありません。職員一人一人の努力が必要というわけです。「お互い」が努力して、積み重なって築かれるものです。

では、利用者さんとの信頼関係はどうでしょう。まず私たちが利用者さんへ尊厳の気持ちを持つことは土台です。利用者さんを知り、特性を受け入れ、支援者として知識や経験を積んでいくことも重要です。まず、「私たちから」理解に努め、利用者さんに共感し、共に歩む気持ちを持ち続けていただきたいと思います。

法人理念に立ち返り、福祉のプロとして、人として、低きに流れることなく成長していきたいと思うのです。

イ 「仕事ができる人は諸刃の剣」

『「熱意」と「能力」というのは、0から100までの値を取る。ところが「考え方」というのは、マイナス100からプラス100までの値を取る。つまり熱意と能力が高い人は、考え方がプラスなら会社を成長させる人材となるが考え方がマイナスなら会社を後退させる人になる。

熱意・能力がともに100だとして、 100×100 で1万。その1万の人の考え方が、プラスの値を取るか、マイナスの値を取るかで、組織にもたらす影響はまるで変わる。』

ここでいう考え方の「プラス」「マイナス」とは、積極的とか控え目とかいう人の性格のことでは当然ありません。例えば、「熱意100×能力100」の仕事ができるキレッキレの人が、-100の考え方であるとしたら、その人が与える影響はなんと-1,000,000。これが、「仕事ができる人は諸刃の剣」という意味です。

ウ 事業所間の連携について

事業拡大や利用者さんご自身や保護者の方の高齢化により、法人内の事業所間・他法人の事業所との連携・情報共有の重要性はさらに増しています。ご自身の事業所からの視点だけで利用者さんを見るのではなく、他事業所とのつながりや社会生活全般ひいては人生のトータルを考えて見つめていくことがますます求められると感じています。

エ 研修の充実

ケア労働（障がい者支援、高齢者介護等）に関わる方々の賃金の低さという問題は指摘され続けていますが、幸いなことになごみかぜには、比較的若い世代の方々の応募もあり、ありがたく感じています。しかしその分、貴重な若い世代の人材を育てていく研修の役割もますます重要になってきます。

障がい者支援の柱は「人」です。「人とどう関わっていくか」ということです。

その人を、どういうまなざしで見つめるか　その人を、どうやって理解を深めていくのか

その人との、関わり方の幅をどう広げていくのか（虐待、差別、権利擁護を含め）　その人の暮らしをどう支えていくのか

それらを柱にして研修に取り組んでいきたいと思えます。

初年度の研修（採用時研修、6か月後の振り返り研修）中堅的職員の研修
リーダー職員の研修　法人全体研修（実施の方向で検討を進めていきます。）

（文責：匂坂文明 早川麻由美）